1. 議 事 日 程 (6 日 目)

(令和6年那智勝浦町議会第3回定例会)

令和6年9月25日
9時30分 開 議
於 議 場

日程第1 一般質問

9 番 松 本 和 彦…………… 251

- ①懸泉堂に関する事
- ②少子高齢化に関する事
- ③企業誘致に関する事
- ④長期総合計画

6 番 西 太 吉…………… 268

- 1. 旧浦神小学校へのトイレの設置
- 2. 紀伊浦神駅のトイレ改修
- 3. 浦神⇄庄 道路の修復

7 番 加 藤 康 高…………… 273

- 1. 町長が考える「住んでよかった・住み続けたい・住んでみたいまちの実現」に向けた観光による活性化、活気ある産業で雇用が生まれるまちづくりの現状は？
- 2. アートでまちを巡る取り組みを！

2. 出席議員は次のとおりである。(11名)

1 番 引 地 稔 治	2 番 吾 妻 正 崇
3 番 城 本 和 男	4 番 曾 根 和 仁
5 番 藤 社 和 美	6 番 西 太 吉
7 番 加 藤 康 高	8 番 東 信 介
9 番 松 本 和 彦	10 番 津 本 ・ 光
11 番 勝 山 則 子	

3. 欠席、遅参、離席及び早退議員は次のとおりである。

4 番 曾 根 和 仁	遅参 12時59分～
5 番 藤 社 和 美	早退 12時59分～

4. 地方自治法第121条第1項により説明のため出席した者の職氏名 (16名)

町 長 堀 順一郎	副 町 長 瀧 本 雄 之
教 育 長 岡 田 秀 洋	総 務 課 長 田 中 逸 雄
税 務 課 長 増 田 晋	住 民 課 長 太 田 貴 郎
福 祉 課 長 仲 紀 彦	こども未来課長 竹 原 大 二
観 光 企 画 課 長 畑 下 貴 幸	農 林 水 産 課 長 村 井 弘 和

建設課長 井道則也

会計管理者職務代理者 塩崎圭祐

参事(消防長) 湯川辰也

教育次長 中村崇

水道課長 楠本定

病院事務長 寺本斉弘

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名(3名)

事務局長 寺本尚史

事務局主任 上仲映豪

事務局主査 北郡克至

~~~~~ ○ ~~~~~

〔3番城本和男議長席に着く〕

○副議長（城本和男君） おはようございます。

報道各社から議場での撮影許可の申出がありました。本件について、議長はこれを許可しましたので報告をいたします。

なお、報道関係の皆様をお願いをいたします。撮影は傍聴席から行き、議事の妨げにならないよう、傍聴の妨げにならないよう御配慮をお願いいたします。

傍聴者の皆様をお願いをいたします。傍聴に際しては、お手元の傍聴券に記載しております傍聴人規則を遵守し、携帯電話の電源はお切りいただき、議事の円滑な進行に御協力いただきますようお願いを申し上げます。

なお、今定例会では、議場撮影の配信の試行として一般質問の様子を撮影しております。皆様方の御協力、よろしくをお願いを申し上げます。

~~~~~ ○ ~~~~~

9時30分 開議

○副議長（城本和男君） ただいまから再開します。

本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付のとおりです。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 一般質問

○副議長（城本和男君） 日程第1、一般質問を行います。

お手元に配付しております一般質問一覧表のとおり、通告順に従いまして行います。

9番松本議員の一般質問を許可します。

9番松本君。

○9番（松本和彦君） おはようございます。

通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、懸泉堂に関することとしましてお伺いします。

こちらにつきましては、まず確認という意味でお聞きしたいのですが、この建物について、町のほうから欲しいですっていうふうな意向があったのか、前所有者の方から、何なら町に寄贈したいよっていうふうな申出があったのか、ちょっとそのあたり確認させてください。お願いします。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 懸泉堂についての建物の寄贈についてということでございます。

計画からいきますと、もともと地域の中から懸泉堂の保存っていうところを望まれている方たちがいらっしやいまして、その方たちから町もしくは教育委員会なりへ懸泉堂の保存活用、町で買取りしてとか、そういうような御要望とかはいただいていたところがございます。その中で、教育委員会といたしましても、個人様の持ち物ですので、購入というところは難しいです

けども、寄贈いただければ、そういった保存活用とか考えるというふうな考えを示しております。その中で、今回、現在の所有者様のほうから寄贈というお話があったので、こちらのほうも受けさせていただいたというところでございます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） そうしましたら、町のほうから寄贈してもらえるんやったら寄贈してほしいよっていう意思表示をされたっていうことでよろしいですか。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 寄贈いただけるのでしたらというところでは、はい、そういうことでございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） すいません、僅かな金額かも分からないんですけども、常日頃から1円単位にこだわってちょっと質問させていただいてますので。

所有権移転された時点で、こちらの建物から税収が得られなくなっていると思うんですが、そもそも町の収入っていうのは税収が主なものやと思ってます。それがたとえ1円という形であってもなくなってしまったっていうことは、住民全体の公益性を欠いたのではないかなとは思っております。それに見合うだけの活用方法とかがない状態で、こちらの懸泉堂を寄贈してくださいよっていうふうな意思表示をされたということなのかと、あと固定資産税っていうのが主なものだと思うんですが、こちらについて本来、町が得られるであった税収がどの程度得られなくなったのかというのを、可能でしたら教えてください。

○副議長（城本和男君） 税務課長増田君。

○税務課長（増田 晋君） 懸泉堂の固定資産税額というところでございます。

懸泉堂の土地家屋につきましては、町に寄贈されましたので、今後、固定資産税はかからなくなります。その部分については税額の減収というふうになります。なお、評価額と税額につきましては個人情報になりますので、ちょっとお答えすることはできません。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 今、その税収に見合う効果が見込まれるかというところでございますけども、今現在、保存活用というところに当たりましては、効果的な活用というところは模索しているところでございます。ただその文化財の保存というところに当たりましては、その文化財を保存するとともに、後世に知らせていくっていうところの意味合いもございますので、そういった意味では、お金に代えられない部分というものもあると思いますので、私もそういう考えでやっております。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 後のほうで触れるんですが、長期総合計画の中でも歴史文化、文化財に触

れて町を誇りに思う町民を育てるみたいなコピーがあったと思うんですが。その一環でこれを文化財としてやっていくという目的があつての寄贈をお願いしますということだったという認識でよろしいですか。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） はい、そのとおりでございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） そうしましたら、前回の定例会のときでも御質問させていただいたんですが、歴史的文化的価値があるという認識で町が思っているし、県のほうでもそういった文化的な価値があるということのお答えをいただいたと認識しているんですが、その後、この3か月で町の意向として県への働きかけと、今後の運用の中でどうしても費用というのが要ってくると思いますが、県等とその費用面の運用について何か打合せはされたんでしょうか。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 前回の定例会のところでも少し触れさせていただきましたけども、和歌山県の文化遺産課、こちらは文化財の担当課になるんですけども、そちらの担当技官の方と、それとともに県文化遺産課からの派遣依頼によりまして、和歌山県建築士会のヘリテージマネジャー、こちら文化遺産、文化財の登録遺産の研修等を受けた資格を持つ建築士の方ですけども、そちらの建築士の方に現地の確認をいただきまして、国への登録有形文化財建造物制度への登録に向けた助言をいただいているところでございます。

そういったところで、県のほうでも登録有形文化財に向けた予算というのがあるということで、その中で登録文化財に向けて何か手助けいただけたところはないか、もちろんこの派遣いただいている費用とかは県のほうで頂いているんですけども、そういうところは御相談させていただきます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 最終、国の文化財の指定っていうのも目標にあるのかも分かんないんですけども、現時点で、前回も言いましたが、不良空き家状態やと思ってます。僕の個人的な感想です、申し訳ないんですけども。ですんで、それを文化財として守っていこうと思えばかなりの費用も要りますので、なるべく町のお金を使わずに、何らかの補助金等を活用していただいて、その意に沿うような事業にさせていただきたいと思うことが1点と。

2階の建具が、何か装飾がきれいでっていうふうなところが代表されるところなのかどうかもちょっと僕は分かんないんですけども、もしその文化的な価値のあるものが既にあるのであれば、さっきの補正のときにあった、文書等の薫蒸とかの絡みにもなると思うんです。その文化財を適正に保護して保存するっていう形で管理していただきたいなど。行く行く建物をやり直すにしろ何にしろなんですけども、その方法として本当に物理的に建てるっていう方法しかないのかっていうところが、前回もお話しさせていただいたんですが、なるべく費用のかからない方法で、後世に残せる方法っていうのを併せて考えていただいて取り組んでいただきたいと思うんですが、そのあたり、具体的に現時点、方向性が決まってないところで難しいとは思

んですが、もしお答えをいただけるんでしたら教えてください。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 建物の改修に関しまして補助金の活用というところでございます。

現在、いろんな補助金に当たっているんですけども、補助金の活用に当たりまして、やはりその建物の用途とか、そういったところも一つの要因になってきますので、その辺のところを効果的な運用というところで、今模索しているところでございます。中に残されている、その文化財ですね、そちらのほうにつきましても、こちらのほう県の文書館の方とかそういった専門の方の御意見も伺いながら、保存、管理のほうに努めたいというふうに思っております。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） ありがとうございます。

今後こういった過去の方で有名な方の関わったような建物がっていう案件が出てこないとも限りませんので、こういったパターンで寄贈を受けるときは、しっかり利活用の方法をまず考えていただいて、それにはどうしたらいいかっていう戦略を立てていただいて、もろたは触らんとずっとおるわって感じじゃなくて、もろた限りは、どういった活用方法が一番住民にとっていいのかっていうことをしっかり議論していただいて、今後の文化財等の保存とか管理に努めていただきたいと思います。

1番については、それで終わらせていただきます。

続きまして、少子・高齢化に関することとしましてお伺いします。

今年の夏は非常に暑かったというところは、もう皆様、肌感覚で分かっていると思うんですが、ここで少子・高齢化としまして、主に子育て支援という点でお伺いします。

まず、学校のほうで父兄とか生徒さんで、夏休み、居場所がないよとか、何か昼食べるものがないかっていうふうな声があったとか、そういうのはお聞きになってますか。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 私は直接お伺いしたことはないんですけど、ただ、全国紙等の新聞の中でそういったことが問題になっているということは認識しております。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 全国紙等の報道等でもってということなんですが、この町の中でも少なからずそういった声はあります。学校給食っていう制度ってのが、子供っていうかお子さんたち、また父兄の方のためにも活用することは非常に重要なことかなと思います。特に、本町の学校給食制度については、僕、議員にならせていただいてから、度々調理員さんがいないとか、そういうことをよく聞くんですが、そのあたりについて何か把握されている課題とかあれば教えてください。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） お答えさせていただきます。

給食調理員につきましては、今年に入ってから、実際、下里中学校、それから下里小学校におきまして調理員不足というところがございます、各保護者の方にもその旨をちょっと御案

内させていただいているところでございます。

近年、働き手不足という問題もある中で、なかなか給食調理員の確保というのは難しいところでございます。そういったところで何が問題なのか、そういうところは教育委員会としましても問題点を探りながら解決に向けて今進めているところでございます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 調理員さんの仕事っていうのは、非常に神経も使うし、最終的に子供たちが口にするものっていうところもあります。募集してもなかなか人が集まらないということなんですが、そのあたり、もし処遇っていうか、会計年度任用職員さんが主かと思うんですが、給与形態のほうで何か別俸給表を作るなりっていうふうなことを議論されたりっていうのはあるんでしょうか。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 処遇のところに関してなんですけども、今基本的にうちのほうで採用しているのが日給という形になっております。そちらに関しては、実際勤務いただいたところでいうところで、夏休みとか冬休み、春休み、そういった長期の休みに関しましては給食調理業務はございませんので、今のところ日給という形なんですけども、よその団体につきましては、そういったところで月給という、月給が保証されているっていうところもございまして、そういったところ、よその団体の状況等を今探っているところでございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 夏休みとかお休みのときに給料がないっていうところが一つの課題だったとしてのお話なんですけども、子育て支援の一環としてなんです。夏休みとか、そういったときに給食の提供とか、学校施設を開放していただくとか、その学校施設のほうも小中全部じゃなくて僕はいいかなと思ってます。中学生は、もともとの小学校に来る手段は多分あると思うんで、特に交通の弱者的になる小学生の子たちで、特に居場所がないとか、御飯がちよっと難があるっていうふうな子たちを、既にもうスクールバスの仕組みもあるので、そういったところを複合的に取組をしていただいて、また来年も夏はきっと暑いと思いますし、なかなか景気もよくならない中、子育てに大変な世帯もたくさんあると思いますので、そのあたりを学校教育現場としてバックアップしていただくような取組はいかがでしょうか。お願いします。

○副議長（城本和男君） 教育次長中村君。

○教育次長（中村 崇君） 今、議員さんおっしゃられた中で、その子供の居場所とか、あとはその生活の関係のっていうところでございますけども、教育委員会の立場でいきますと、例えば生活関係のフォローになってきますと、私どもの課だけでいいかっていうところもございまして。

あと、学校施設の問題につきましても、登校されるというところで、管理、どんな形でしていくかとか、何はともあれ安全管理というところが一番になってきますと思いますので、そのあたり実際、施設の運営管理している校長等の意見も確認したいとは思っています。

一つ、給食調理員の確保に向けた休み中の給食業務っていうところなんですけども、そちらに関しましては、私どももどんな形のものができるかというところは検討していく余地はあると思いますので、そういったところ、近隣市町村の働き方ほか、全国的なところで先進的にやっているところ、参考になるところがあるかどうかというところは探っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 町長、すいません。長期総合計画の中も、着実に笑顔でっていう感じ、笑顔でつくるやったかな、ちょっとすいません、のがあるんですが、やっぱり常日頃、子供は宝やっていうふうな表現をよくされるんですが、ぜひ子育て支援というか、子供たちの今後のためにも、財政面的なことであるとかでちょっと前向きに、来年、また本当に暑いと思いますんで、お考えいただけるようなことっていうのは可能でしょうか。

○副議長（城本和男君） 町長に答弁求めてますね、はい。

町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 先ほど長期総合計画、着実にわがらで創る笑顔のまち那智勝浦らしいです。らしいですというか、笑顔のまち那智勝浦町でございます。広く子ども・子育ての支援につきましても、以前からハード整備、ソフトの面で支援をしてきたつもりでございます。例えば小・中学校の給食費の無料化、実は中学校の給食が県下で那智勝浦町だけができてなかったんですね。それがやっと給食制度もつくりました。

ハード整備ができましたら、特に木戸浦グラウンド、つちみから芝生化をしたり、バスケットを作ったり、その前にやっぱり子供たちの安全のために避難タワーを造ってというようなことで、そういう意味では子ども・子育てがしやすいような状況をつくっているところでございます。

今、それは広く一般のことで、学校に関しましては、なかなかちょっと私どもが、私が動くことのできる状況ではございませんが、本当に子供たちが健やかに育つ、那智勝浦町で生まれ育ってよかったと言われるような町にしていきたいというふうには考えてございます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） ありがとうございます。

様々な施策で子育て支援とか、町全体で考えていただいているというところなんですけど、昨今の本当に夏の暑いところと、生活をするので精いっぱいやっちゃう家庭もあると思いますんで、もう一步踏み込んでいただいて、ぜひとも何か仕組みづくりにトライしていただけたらと。もし僅かでも財源としてそこに割いていただいて、学校のほうでっていうところは教育委員会さんのほうでやるでっていう言うたってもろたら進むかなとも思いますんで、少し前向きにやっていただけたらなと思います。答弁は結構です。

じゃあ、すいません、ちょっと今の件についていかがでしょうか。

○副議長（城本和男君） 副町長瀧本君。

○副町長（瀧本雄之君） 議員の御質問で、最初の給食調理員からこういう話になっておりますが、子供の夏休みについては、こども未来課のほうで午前中から学童保育を預かることをさせていただいております。

そして、一番最初の給食調理員の不足についても、先ほど教育次長が申しましたとおり、何が魅力ないのか、月給制がいいのか、そこは今私どもでは検討させていただいておりますので、給食調理員のほうについてはちょっと時間をいただきながら、新年度から違う形が出てくる予定で進まさせていただいております。そして、今申しました夏休みについても学童保育等の充実等々も踏まえて、今後進めていくつもりでございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） すいません、ちょっと確認だけさせてください。

学童保育の午前中っていうところは、給食ありなんですか。

○副議長（城本和男君） こども未来課長竹原君。

○こども未来課長（竹原大二君） 夏休み中の学童保育、午前中からやっております。昼の御飯につきましては、持ってきていただくという形になっております。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） しつこくて申し訳ございません。そのあたりを少し前向きに一步踏み込んで、お昼の食べれない子供っていうのがきついですんで、その子たちを酌み取るというか、救うということでも、前向きに少し検討いただきたいなと思います。

ちょっと学校給食とか夏休みの給食の件については、これで終わらせていただきます。ぜひ前向きをお願いします。

それで、この少子・高齢化についてのもう一点、ちょっと自分の気になった点だけなんですけど、認知症サポーターの研修を前回の定例会のときに受けて、そのときに少し聞いたんで、もう早速その質問をさせていただきます。

難しい話は昨日、勝山議員がしてたんで、僕はちょっと簡単なことではないです。

まず、この前の認知症サポーターの研修のときに、介護施設等の職員さんの高齢化等で現場の職員さんが非常に少なくなってきた、今後の運用面ではやっぱり人のことが大事やっということだったんですが、その中で教育現場等で介護のことがっていうことも昨日お話いただいたんで、よく分かりました。ぜひその辺は今後誰もが年取って認知症になる可能性を秘めてますんで、介護予防の観点からも人材確保の仕組みづくり、行く行くは外国人の方に来ていただく可能性もあるようでしたら、その辺の制度整備のほうを事前をお願いしたいなというところなんです。

そして、お聞きしたいのは、ふれあい・いきいきサロンというところだけが自分の目に留まったんで、こちら55万円ぐらいの事業でやられてるんですけども、主な内容っていうのは何かっていうのと、その認知症サポーターの研修のときに、地域のコミュニティーっていうのが今

後大事ですよってということもお伺いしています。そういうところでふれあい・いきいきサロンっていうのがあるのかということ、もしほかにそういった制度があるようでしたら、そのあたりを教えてください。お願いします。

○副議長（城本和男君） 福祉課長仲君。

○福祉課長（仲 紀彦君） 高齢化に関するということで、特に認知症に関することということで御質問いただいております。

2点あったかなと思います。

その一つは、介護特会の中で、認知症総合支援事業というのを実施しております。この認知症総合支援事業といたしましては、決算額、議員おっしゃいますように50万円程度になっております。

そのまず内容なんですけども、昨日の答弁とちょっと重なる部分がございますので、御了承ください。認知症地域支援推進員っていうのを町内で2名ほど、お願いしております。それを認知症のグループホームを運営されている事業所2か所をお願いしてるんですけども、その委託費が主なものになってきます。その方を中心に認知症の早期発見で早期対応とか、認知症ケアの体制整備というのをお願いしているところでございます。

先ほどもございましたが、その認知症サポーター養成講座の実施っていうのが主な事業になっておるんですけども、それ以外では認知症イベント、それに深く関わっていただいております。令和4年度からイベントのほうを実施しているところですので、今年度は認知症サロンということで実施していきたいと考えております。

そちらのほうにつきましては、認知症地域支援相談員という方も含めて定期的に協議、連絡会を設けてますので、その中でまた様々な事業というのは検討しております。そして、その中でまた、例えばですけども認知症ケアパス、そういった冊子も作ったりします。そういったことがまた作りたいっていうことになれば予算を伴ってきますので、そのときはそれに応じて予算も増やしてほしいなと思っております。そういった中で様々な支援策というのは考えていきたいと思っております。

そしてもう一点、コミュニティが大事ですよってという話があったということです。その辺ちょっとお話しさせていただきたいんですけども。

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活ができるよう介護サービスの充実とか相談支援、介護予防、認知症対策など様々な取組が必要な中で、具体的な施策としまして、社会参加の促進というのが大変重要になってきます。現状、福祉課では、住民主体の通いの場の充実、こちらに重きを置いて取り組んでおります。令和5年度末時点で町内55団体、増加しております。御存じのとおり通いの場は、高齢者同士や多世代との交流、そういったこと、多様な活動を通して介護予防、健康増進、生きがいつくり活動を行っております。

先ほど言いましたふれあい・いきいきサロン、こちらも通いの場の一つになります。あと老人クラブ、こちらも通いの場になっております。それ以外の集まりっていいですか、そういったのは福祉課のほうで管轄しておって、それぞれ老人クラブ連合会、社会福祉協議会と福祉課

で運営補助とか、そういうのを outsourching させていただいてサポートさせていただいております。

ただ、今後さらに進めていくということで、新規の立ち上げはもちろんなんですけども、補助金以外での継続支援っていうのも考えているところで、具体的な一例案としましては、実は体操を実施している団体等も多くございます。今年から福祉課在籍のスポーツトレーナーございますので、そちらの方を活用して、体操しているところも定期的にちょっと関わらせていただいて、体操をしっかりまた使用させていただいて、継続支援していきたいなと今ちょっと考えているところです。

いずれにしても様々な支援策というのをみんなで考えて取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 今後もますます人口減少等、高齢化社会が進んでいく状況かと認識しています。福祉っていう位置づけというのが、今後の町政運営にも非常に重要な位置づけかと思えますので、取りこぼしのない、高齢者支援等も併せて、いつまでも楽しく過ごせる老後っていうか、そういうことができるような施策をしていただけたらとお願いして、2つ目の質問は終わらせていただきます。

続きまして、3つ目の企業誘致に関することとしまして質問させていただきます。

まず、この中身の部分なんですけども、普通財産の中の特に用途廃止施設についての、まず処分計画をお伺いします。よろしくお願ひします。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） お答えいたします。

用途廃止施設でございますけども、まず昨年、令和5年度に、那智山の公営住宅について取壊しを行っております。また、今年度につきましても、旧色川小学校の教員住宅、それから旧町立温泉病院医師住宅の取壊しを予定してございます。

今後も優先順位をつけて可能な範囲で取壊しを行う計画としておりますが、取壊しに多額の費用が必要となる施設につきましては、取壊しの財源確保のための跡地利用計画も含めた計画といたしたく、具体化できていないものもございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 跡地利用計画をまずするというのも大事かと思うんですが、現時点でグリーンピアも含めて町全体で企業誘致等の何か話があれば教えてください。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 企業誘致についての取組ということなんですけれども、企業誘致につきましては、進出を検討いただける企業様からのお話があれば、視察の対応や情報提供など、可能な範囲で対応してまいりたいと考えております。また、和歌山県とも連携して取り組んでいるところでございます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 町の活性化のためにも、また雇用の創出の部分でも企業の誘致っていうのは大事なことかと思しますので、ぜひ積極的に企業誘致等の話があれば、実になるようにやっていたきたいと思います。

その延長線上というか、グリーンピア南紀の跡地利用に関してになってくるんですが、こちら昨日の吾妻議員のちょっとした話の流れにもあるんですが、大学の話で、大学設立団体からの用地貸与に係る要望、こちらについて5月15日に町からの回答書が出ているかと思います。その中身はさておいて、理事長の樋口さんのブログの中に、10年間の無償貸与っていうところがあります。現在は、そのブログは交渉中っていうふうになっているんですが、昨晚も確認させていただいております。

まず、町として土地は貸与する意思っていうのがあるのかなのかというところで教えてください。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） お答えいたします。

5月7日付で、大学の設立準備財団のほうから、土地の貸与に関する要望書というのを頂きました。それに対する回答といたしましては、条件付ではございますけども、貸与は可能ということでお答えしております。

なお、そのホームページ上に10年間ということに記載されているということもございますけども、これ現在、本町がグリーンピア南紀跡地について土地の貸与を行ったという事実は今のところはございませんので、今後何らかのそういった動きがありましたら、また改めて御報告はさせていただきますと思います。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 大学に来ていただくお話っていうのは、個人的には非常にいいことと思っております。ただ、町のほうの回答書の中に、近隣自治体とか関係団体等の許可やったか承認やったかっていうところの表現があったと思うんですが、町として公募する場合の判断基準っていうのは、条例の中のその部分だけということなんでしょうか。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） お答えいたします。

その条例ということもございますけども、要望書への回答の中で、貸与に当たってのその条件といたしまして、那智勝浦町財産の取得、管理及び処分に関する条例等の規定により、貸付条件を定めるものとしますということに記載させていただいております。

これにつきましては、その条例の規定によりますと建物が含まれておりますので、5年間がその期間ということが定められてございますので、もし貸与するとした場合は5年ごとの更新による貸与になろうかということで記載をさせていただいております。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） すいません、ブログの中の一言のところでお聞きしたいんですが、交渉中

ってなってます、交渉って、一般的というか、僕の考えでは、何か条件を言われてて、その条件をクリアしたら公募にたどり着くかなっていうふうに、ただイメージしてしまうんですが、その交渉中っていう件に関しては、特に町からこの条件をクリアしたら、もう公募するよいうな手順になるよっていうふうな何かお示しはあるんでしょうか。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） その財団のほうが交渉中という表現を用いられているということなんですけども、私どものほうで何らかの交渉を行ってくださいということをお願いしたという事実はございません。

ただ、要望書への回答の中では、関係団体への同意が必要ということで、これは記載させていただいておりますけども、この意図するところは、どのような造成工事あるいは建築工事がなされるかということが示されてございませんので、周辺環境への影響がどのようになるかということが現時点では分からないということがございましたので、もし何らかの工事をされる場合には、そういったことについても御配慮いただきたいという意味のことを書かせていただいております。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） そうしましたら、申し入れていただいた大学設立をしたいっていう方からの事業計画とかがまず必要というところと、特に町のほうからは、こういった条件じゃないとっていうことは申入れはしてないという認識でいいですか。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） その申入れをしていないということではなしに、条件付で貸与は可能ですということでお答えしております。

申入れはしてありませんけども、一つの事業ですから、やっぱり周辺の方の協力も得ながらということが必要になるかと思っておりますので、そういう意味合いでの記載ということでお考えいただいたらと考えてございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 冒頭申し上げましたが、大学が来てくれるっていう話はいい話かなというところは認識してますが、ただ一方で、もし開設されるようなことになったときに、何も形になってないんでこういうことを言うのはあれですが、その事業が途中であかんくなったときに、入学した子供たちがやっぱり一番不幸になるんで、その施設を貸すときにしっかり大学設立側の人たちの与信をしていただいて、無償で貸すみたいな条件ではなくて、うまくちょっと言えんけど、しっかりした審査をしてほしいなっていうところなんですけど、そこをちょっとお願いしたいです。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） その貸与に当たっての町としての考え方なんですけども、まず最初に大学設立に当たりましては、本町だけがその事業の妥当性、継続性について審査をするということではなく、やはり国の文部科学省の認可っていうことも経て、新設なされるということで

ございますので、そのあたりを十分注意しながらということになろうかと考えてございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 学校の認可を取ってきたら、貸すってことでしょうか。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） まず、学校を設立するに当たっては、文科省の認可というのはまず一番最初に来る条件かなということでございます。その上で、本町にとっての事業の妥当性であったり、それから計画性であったりというのは、それは十分考慮されるべきではないかというふうに考えております。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） うち覚えですいませんが、たしか学校の設立の条件に、校舎等の場所があるかどうかというのもあったかと思うんですが、その手順でいくと、認可を得るためには土地が要るしっていうふうな、土地や建物が要るしってということが考えられるんですが、そこはそしたら国、県、町と一緒に考えていくってということですか。同時進行っていうことですか。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 認可に当たっての必要な要件ということでございますけども、それは本町がそれに対して携わるということではございません。本町につきましては、グリーンピア南紀跡地の本町が所有する部分について条件を満たしていただければ、お貸しすることは可能ですということで回答しているということでございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） すいません、理解、今ちょっとできてなくてですね。大学の認可を取るには、土地とか建物の確保ってというのが必要やったようなことやったと思うんですよ。そやけども、認可とかそういう条件をクリアしてなかったら、多分貸すための公募のどこにも、のってこんよって感じやったら、鶏が先か、卵が先かになってくると思うんですけども、その辺、ちょっとすいません、分かるように教えてください。

〔「町に対する質問の範囲を超えてあるような気がするんですね。

そっちの話は。こっちは貸すかだけの話なんでね」と呼ぶ者あり〕

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） すいません、お答えいたします。

まず、その土地の貸与についての回答ということでは、委員会のほうでも御報告申し上げたとおりでございます。

今おっしゃられてますのは、事業の妥当性とか継続性とか、それをどう町として推しはかるかどうかということになろうかと思うんですけども、それについてはやはり国の認可とか、そういうところがまずあってしかるべきものなので、本町のみでそれを検討するものではないのかなというふうに考えております。

ただ、全くそれについて本町が考えないということではなく、町内の一部の地域で実施され

る事業ですので、それについても十分見ていきながら事業実施していくことが必要ではないか
ということで考えてございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） すいません、分かんです。

ちょっともう平たい質問ですいませんが、町としては来てくれるんやったら構わんよやし、
ほんでそのためには事業計画なり何なりっていうところはしっかりしてくださいやっていう
ふうな考えやよっていうことでいいんでしょうか。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） 今、議員おっしゃられましたとおおり、おおむねそのとおりでないかと
いうことで考えてございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） もし条件的に本当にいい計画やよっていうふうな判断がなされましたら、
この前も中学校の子との懇談会とかで、この町に大学があればっていうふうな意見もありまし
たので、本当にしっかり審査していただいて、与信の部分もしっかり審査していただいて、も
し実現可能でしたら協力してあげていただけたらなと思います。

3つ目の質問を終わらせていただきます。

それでは、最後の4個目の長期総合計画についてお伺いします。

こちらの計画については、実現可能な計画っていうふうなことを目標にして策定されている
かと思います。それで、2021年から2025年の計画だと思うんですが、現状値と目標値について
は、スタートが2019年の現状値というふうになってるかと思っています。

それで、まずお伺いしたいのは、こちらは毎年評価、検証っていうふうな計画かと思いま
すので、現時点でこの現状値と目標値に対して、全体ざっくりでいいので、どの程度ぐらいや
れているよっていうのがあれば教えてください。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 長期総合計画の達成状況ということで、その内容には主な施策
が書かれていたり、目標値が書かれているところなんですけれども、そのうちの重点施策につ
いては、その実施計画である那智勝浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略というのが別途あ
りまして、そちらのほうでK P Iなどの目標を立てて進めております。そちらの総合戦略につ
いては、毎年、有識者の方にお集まりいただいて効果検証を行っていただいているところで
ありまして、先日、令和5年度分の取組についても検証を行っていただいたところです。

総合戦略においての令和3年度から令和7年度の取組を目標とした31のK P I指数があるん
ですけれども、先日の検証においては幾つかの項目については既に最終年度、令和7年度の目
標を上回っている状況のものもあります。これまで新型コロナウイルス感染症や急激な人口減
少によりまして、この5年間の間の状況も踏まえると課題の多い目標もありますけれども、令
和7年度に向けての目標の達成について取り組んでまいりたいと思ってるところです。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） ありがとうございます。

それで、ちょっと気になるところがあるので、それについて少しお伺いしたいんですが。

まず、防災のところ、防災に対する施策っていうの、優先度としては91.9やったかな、高いと思うんですが、その中で今回、築地避難タワーとか各避難タワーが町の要所要所にあるのですが、9月号の県民の友で、南海トラフ地震の最高津波高が14メートルで、平均浸水深というのが4.5メートルでした。あれだけ見ると、一般の人っていうか、住民からしたら本当にこれ大丈夫かって思うって思います。そのあたり、一時避難場所としてそれぞれの避難タワー、今建てている築地の避難タワーとかが安全性が担保されているのかというところを教えてください。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） お答えいたします。

本町の最大津波高14メートルということで、県民の友にも記載がございます。その14メートルという津波ですけども、これ本町の全域にそれが押し寄せるということではなくて、地形などの条件によりまして、その地点ごとの最大の浸水深が予想されております。

本町の津波避難タワーでございますけども、現在、築地地区に建設中のもの、それを含めまして7基ございます。それぞれの建設現場におきます想定浸水深ですけども、南海トラフ巨大地震では3メートルから7メートルというところが予想されております。その中で最大の7メートルの浸水深が予想されておりますのが天満地区の津波避難タワーの地点となりますが、この天満地区津波避難タワーにつきましては、ステージ高が11メートルありますので、想定浸水深より高い高度となっております。また、ほかの津波避難タワーにつきましても、建設地の想定浸水深ごとに高い位置にステージを造るなどの構造となっております。

そして、今現在建設しております築地地区避難タワーにつきましては、4階建てのものとなりますけども、南海トラフ巨大地震における想定浸水深が4.4メートルの地点になります。2階のステージ高が8.4メートルの構造ということで現在建築しております。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） ありがとうございます。

続けて、その防災関係なんですけども、前回の定例会でも備蓄品について、一遍に目標備蓄品を買ったら幾ら要りますかっていうふうな質問をちょっとさせていただいたんですけども、それは保管場所等のこともあるので、実際一遍に買うのは無理やよってということかと思っております。今回の巨大地震注意等でも、水が消えたり、何が消えたか、ちょっと水くらいかなと思うんですが、これって住民の皆さんが日々、町に備蓄品がどんだけあるとか、災害があっても町が頼りになるっていうふうな認識があまりされてない現れでもあるのかなと。一概に全部町で備蓄っていうのは難しいかも分からないんですが、こっだけ注意報が発令されて、一遍にこういう非常事態になるっていうところを避けるためにも、設備の充実がされつつあるので、非常食とか毛布とか、そういったものを今、天満区とかグリーンピアについていうふうな記述が

あったと思うんですが、細かく配備できるように取り計らっていただきたいなとは思いますが。

すいません。防災・減災です。それで、はい、です。

あと、防災のところに関連するんですが、消防水利のことで耐震性貯水槽と消防水利っていうのも、重点施策ではないんですが、記述があります。そのあたり、能登のほうでまだ今断水が続いています。そういった観点からも整備していく必要があると思うんですが、そのあたりどのように今は整備が進んでいるのかと、お考えがあれば教えてください。

○副議長（城本和男君） 消防長湯川君。

○参事（消防長）（湯川辰也君） 耐震性貯水槽についての御質問でございます。

現在、本町におきましては、貯水槽につきましては消防水利の基準を満たします40トン以上の水槽は49基ございます。そのうち、10基については耐震性貯水槽でございます。令和5年度から古い貯水槽に対しまして耐震化を図るため、中にシートを張るといような工法を令和5年度、令和6年度で2基ずつ実施しているところでございます。それにつきましても今後実施していくというふうな考えでございます。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 消防水利等の関係になると思うんですが、水道事業、重点施策の中に水道事業の健全化っていう項目もあります。それについて、昨日、吾妻議員も質問されてましたが、決して今健全化はされてないと思います。

そこで、早急に水道料金の値上げというのは必要かと思いますが、昨日のお話ですと、来年度っていうふうなことの答弁だったと思います。もう少し早くならないのかというところが思うところなのですが、町長的にはどうですか。

○副議長（城本和男君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 水道事業の健全経営というのは、本当に課題がある中で、健全に経営をしていかななくてはいけないと思ってます。特に、水道料金の値上げにつきましては、住民生活に一番影響のあるところでございますので、水道料金の審議会というようなところで、有識者の方々の御意見を聞きながら料金改定をしていくと。そういう意味では少し時間がかかっていますが、来年また値上げの必要があるということでございます。

将来見たときにも、やはり2番議員もおっしゃっていただいたように、値上げはやむなしっておっしゃっていただくのは本当に心強い限りでございますが、なるべく町民に負担のないような形で進めていきたいと思っておりますし、先ほど耐震の関係でいきましたら、ちょうど国道42号線の湯川駅のところの太い水道管を今布設替えをしております。そこは地震があると、もしもの場合、破裂したりというようなことがございますので、そういったことも順次入れ替えながらやっていきたいと思っておりますし、そういった対策を進めます。ただ、それはやっぱりお金が要りますから、料金に跳ね返らざるを得ないという中で、なるべく負担のないような形ではありますが、これから将来はやはり料金の値上げについても御理解をいただく必要があるんじゃないかなっていうふうなところでございます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 繰り返しになりますが、住民の生活の安定と、何か災害が起こったときに必ず水というものが必要になりますので、防災・減災の観点からも消防水利も水道事業の中と一緒やと思います。どうぞ水道事業の健全化というところも町の本当に重要施策として早急に進めていただきたいということをお願いいたします。

続いてなんですが、商工等の関係で観光機構の記述もございます。観光機構の記述の中で、本定例会の前の記者発表をされてたところに、合宿誘致の補助事業っていうのがあったかと思えます。こちらの事業が、当初250万円の事業でされてたのが150万円になって、今回の町の発表として200万円積み上げて350万円、全体になったかと認識しております。

こちらについてなんですが、何か町としてこうするよってなったのが、そのまま観光機構でもこういうふうになるっていうところは、わざわざ観光機構を使う意味ってあるんですか。教えてください。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 合宿誘致のことについては、先ほど議員が御提案いただいた内容になっております。それを観光機構で行うのかというところなんですけれども、観光行政としましても、やはりそういう外に打っていく、来た人にも使っていただきたいし、外向けに活用いただきたい、そういうところで観光機構においては旅行商品を発売していただいたり、プロモーションしていただける中で、この補助金を適切に使って、効果的に使えるのは機構のメリットかなと思ってますので、そういう形の補助メニューとさせていただきます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） すいません、観光機構は適切に運用されるっていう答弁だと、町が運営したら適切にならんのかってなってくるんで、揚げ足取って申し訳ないんですけども、その事業として、その150万円の合宿誘致の事業が、町の補正で200万円つけて350万円になるっていうのは、観光機構は手数料も取ってないということですよ。て思うんで、言うたら町の事業ちゃうかなって思うんで、それを観光機構でやる、その意味っていうのがあれば教えてくださいっていう意味です。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） お答えします。

適切にというところがちょっと私の説明不足だったかと思いますが、観光機構でプロモーション、また専門人材もおる中で効果的に取り組んでもらえるというところで、観光機構で扱っていただいていると考えてます。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） 町からの事業として積み上げた200万円は、もうその事業に100%充当され

て、観光機構は手数料を取ってないっていうことでいいんですか。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） おっしゃるとおり補助金ですので、それを活用して、そのまま補助として同じ額を支給いただいております。

以上です。

○副議長（城本和男君） 9番松本君。

○9番（松本和彦君） これ以上は。

すいません、最後に少し御意見を頂戴したいんですが、令和5年度の決算で公共施設整備基金でしたっけ、それに3億円、積み上げてますが、直近の事業として新しいクリーンセンターができれば、旧クリーンセンターの解体もしてもらえるし、火葬場の解体もしていただけるっていうことを含んだ上で財政シミュレーションを見せていただいたところです。それで、長期総合計画の中身として、令和5年の基金積み上げが25億円ぐらいやったかと思います。現状、令和5年の決算で、それと同等の基金積み上げは36億円ほどあって、当初の計画より10億円ほど上振れしているかと思います。その上振れをしてるっていうことは、財政的に健全な運営されていた結果かと思うんですが、実際ひょっとしたら本来やるべき事業をやってないかもっていう視線も出てくるかと思います。実質公債費比率の部分で、今すごくいい状態であろう部分は分かるんですが、町単独でどの辺までやったらほかの事業ができて、幾らぐらいまでやったらまだいけるかっていうのがあれば教えていただきたいのと、この今回の3億円の基金積立では将来的に何か大きな事業を考えてられるのかっていうので、もし言っただけの部分があるんでしたら、教えてください。

○副議長（城本和男君） 総務課長田中君。

○総務課長（田中逸雄君） まず、町単独で幾らまで使えるかという御質問なんですけども、基本的には事業を実施する上では、効果的な財源というものを検討するっていうのが基本になってございますので、単独事業で幾らまでっていう視点は、これまではあまり考えたことはございません。ただ、令和5年度決算だけということで申し上げれば、剰余金が3億円ございましたので、これは基金のほうへ積立を実施させていただいたということになります。

その基金の活用方法ということなんですけども、今回、公共施設整備基金のほうへ積立をさせていただいた、その理由といたしましては、大規模事業につきましては現在クリーンセンターの建設事業もやってございますけども、これからも老朽施設の更新がこれが入ってこようかと考えております。一番大きいのは、やっぱりこの本庁舎の建て替えということもございまして、まだ具体化はしてございませんけども、まずは基金のほうへ積立を行って、それらの財源に使用してまいりたいということで考えてございます。

○副議長（城本和男君） 10分前です。

9番松本君。

○9番（松本和彦君） 大きな事業として本庁舎ってのが控えてるっていうことなんですけども、これを建てた当時は、こういう立派な建物が主流やったかと思うんですけども、極端な話、スーパ

一センターみたいに平家の大きいようなもので、間仕切りつけてみたいな、十分重量鉄骨でも耐用年数をクリアする建て方もあると思いますんで、立派な建物は立派でええかも分かんのですけども、後世にまた要らんもんを残してしまう可能性にもなりかねませんので、そのあたり本当にじっくり検討していただいて取り組んでいただきたいと思います。

これは要望として、これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○副議長（城本和男君） 9番松本議員の一般質問を終結します。

休憩します。再開11時10分。

~~~~~ ○ ~~~~~

10時53分 休憩

11時09分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○副議長（城本和男君） 再開します。

次に、6番西議員の一般質問を許可します。

6番西君。

○6番（西 太吉君） まずは、本年元旦の能登半島地震、そして先日の大被害等、亡くなられた方の御冥福と被災に遭われた方にお見舞いを申し上げます。

ということで、私の一般質問を始めさせていただきます。

それでは、通告に従いまして始めさせていただきます。

まず1番目ですが、旧浦神小学校に、青少年の健全なる育成に願いを込めてロケットのモニュメントを設置させていただきました。これにより多くの方が訪れる新名所となっております。しかしながら、ここにはトイレ設備がなく、訪れる方々に大変な不便をおかけしているのが現状ですが、このモニュメント前にトイレ設備の設置の計画はないのでしょうか。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） まずは、勝浦ライオンズクラブ様によります旧浦神小学校へのロケットモニュメントの設置については、那智勝浦町がロケットの町であることを町内外に発信するもので、発射当日以外にも記念写真を撮る方が訪れるなど、新たな魅力を持つスポットとして役割を果たされています。本当にありがとうございます。

トイレの設置についてですけれども、ロケットの打ち上げ時につきましては、仮設トイレなどで対応しております。将来的にこの旧浦神小学校校舎の活用も含めて、どのようなトイレが望ましいのか、いろんなタイミングもあろうかと思いますが、適切な規模感について検討してまいりたいと思います。

以上です。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） 現状では、紀伊浦神駅のトイレを使用するよう、案内板が設置されていますが、距離も300メートル以上離れているということもありまして、隣の境内地、巖島神社、

通称弁天さんっていうんですけども、そちらの境内地で用を足す方もいらっしゃるために、その処理に宮総代さんはじめ、多大な労力を要しているということもありまして、こちらのほうも勘案して、早急に施設内にトイレの設置を改めてお願いいたします。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 議員の御指摘のとおり、境内地でのマナーとしては非常に残念な問題なのだと感じております。いろんな情報をありがとうございます。

見学場に平素来られる方の滞在時間としては比較的短い時間でお過ごしになるのかなとは思いますが、トイレの必要性については先ほどの回答でも申し上げたところなんですけれども、施設全体、エリア全体の状況を見極めながら検討していきたいと思っておりますので、御理解のほどよろしく申し上げます。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） それでは、現在、ロケットモニュメントの前及び駐車場の辺りの土地の種別はどうなってるんでしょうか。これ公園とされているんでしょうか。どういうスペースで今なっているか教えてください。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 御指摘の土地につきましては、町保有の財産ということでなっております。

以上です。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） その土地の種別によって、これが公園であるかどうかで、例えばこのトイレを設置するについて、規模等が大きく変わってくることになります。公園であれば、これは一番安価になるんですけども、公園のトイレとしての設置が可能となってきます。これはほんの一例なんですけども、例えば男子便所においては、小便器が2基、大便器が1基、女子便所においては、大便器が2基、それと中央に多目的便所、これを設置して、大きさ的にも奥行きは5,400ミリ、幅が8,350ミリ程度、この程度の大きさで、現在で価格が3,170万円ほど、こちらのほうかかってくると思います。これちなみに、5年前であると2,270万円程度で建設できたものであります。価格の高騰により、かなり金額も上がっております。できるだけ早期に計画していかなければならないものと考えています。こちらを併せて検討してみてもどうでしょうか。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 議員御指摘いただきました公園化を含む活用方法なんですけれども、そちらのほうにつきましても将来的な活用を検討する中で、公園化についても、また研究してまいりたいと思っております。

いよいよ第2回の打ち上げが迫ってきて、いろんな状況が今後変わりつつあるかと思っております。今後の当施設の活用方法については、運動場まで含め、エリア全体として地域の方にも親しんでいただけるような施設となるよう整備を進めておりますので、引き続き優先度の高いと

ころから改修を行ってまいりたいと思いますが、その中でトイレの改修についても重要な課題として位置づけて検討してまいりたいと思います。

学校内の設備を活用するのか、また外へ、外のところで公園の公衆トイレ的な形で設置をするのか、またそれ以外の方法、またいろんな手法については今後のロケットの発射計画や学校施設の活用いただけるってというような話も状況も見つつ、タイミングを含めて、よりよい方向性を見つけてまいりたいと思いますので、御理解よろしく申し上げます。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） ありがとうございます。

また、これに併せて公式見学場の現状は、芝生化に向けて整備されている途中ですが、今雑草が多く生えてきておりまして、12月のロケットの発射までかなりの整備が必要かと思えます。多くのボランティアを募集した上、例えば役場の幹部の皆様、今日、今ここに座っている皆様、そして議員の皆様も協力いただいて、雑草の除去作業等々にボランティア活動のほうの参加をよろしく申し上げます。そして、また来てみたい那智勝浦町とするために、全力でおもてなしをしていきたいと思っておりますので、皆様の御協力をよろしく願いいたします。

次の質問に移ります。

次も同じようなものなんですけども、紀伊浦神駅のトイレの関係でございます。

まず、本年3月のロケット発射の際に、本町への見学者は、見学場内外含めて何人ぐらいの人が訪れていただいたんでしょうか。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） ロケット見学場の内外も含めた見学者数ということで、見学場の人数ですけども、3月9日、約2,400人、3月13日、約700人の方にお越しいただきました。ロケット見学場外の集計についてはできてはおりませんが、浦神駅付近にも多くの方がおみえでしたし、下里方面、遠くは色川方面からも見られたということで聞いております。恐らくですけども、見学場以外でも1,000人を超える方に見学いただいたものと考えておりますので、2日間、合計4,000人を超える方に見ていただいたと推測しております。

以上です。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） このとき、特に3月9日、発射されなかったんですけども、その後、紀伊浦神駅周辺には多くの方があふれて、電車も1本でなかなか乗れないということでかなりの時間、浦神駅の前で待たれておりました。この対策も必要と考えております。

現在、紀伊浦神駅の設置されているトイレは、大便器、小便器、各1基、男女兼用でもありまして、プライベート空間を十分に確保できているものではありません。また、当日は仮設トイレも設置していただいておりますが、近隣の商店などでトイレの借用をお願いする方もいらっしゃるしまして、その対応に苦慮したというような申出もございました。

充実したおもてなしを実施するためには、やはり紀伊浦神駅のトイレの大規模な改修を行っていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○副議長（城本和男君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 紀伊浦神駅のトイレ設備につきましては、平素から清掃活動に御尽力いただき感謝申し上げます。

議員の御指摘のとおり、紀伊浦神駅のトイレ設備の規模は小さく、男女兼用でもあることから、イベント時の需要急増に対応できないことも考えられるわけですが、平常の利用としては近隣の同規模駅と同規模の施設となっております、改修は難しいと考えております。

しかしながら、ロケット発射見学時の紀伊浦神駅前のトイレについては課題となりますので、今御指摘いただいた前回の状況も踏まえ、仮設トイレを活用しながら、前回からの改善が図られるよう検討を行い対応してまいります。

また、今後の発射回数等も含めて、いろんな状況が変わろうかと思いますが、今後の課題として取り組んでまいりたいと思いますので、御理解のほどよろしく申し上げます。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） まずは、お褒めの言葉ありがとうございます。

この駅のトイレなんですけども、私自身、平成14年から22年間、清掃活動に従事させていただいていることもありまして、非常に愛着を感じているところでもあります。ただ、設備が古いこともありまして、何とかもつときれいな状態にできないかと考えながら、清掃活動を行っているところではあるんですけども、なかなかこれ以上きれいになってというのが、どうしても設備的に難しいところもありまして、できるだけ早くの改修をさらにお願ひしたいところでございます。

さらに、ロケット見学に訪れる方、特に初めて那智勝浦町を訪れる方にとっては、那智勝浦町の玄関ともなる場所でもございます。気持ちよく利用させていただいて、そして那智勝浦町へまた来てみたいというリピーターになっていただくためにも、気持ちよく使っていただきたいということを考えますので、早期に対応していただくようお願い申し上げます、2つ目の質問は終了させていただきます。1つ目、2つ目、併せてよろしくお願ひいたします。

続いて、3点目です。

現在通行できなくなってます浦神地区から庄地区につながる町道のことについてお聞かせお願ひします。

この道は、私も小さい頃からよく谷の奥まで遊びに行ったり、また小学校の遠足でも使ったことのある道なんですけども、現在通行止めが続いております。たまにトンネルの手前まで散歩の方が通っているような状況でございますが、この道についての現在の状況をお聞かせください。

○副議長（城本和男君） 建設課長井道君。

○建設課長（井道則也君） お答えします。

路線名につきましては、浦神久司坂線でございます。浦神地区を起点とし、庄地区へとつながる町道でございます。平成19年12月にトンネル内壁の崩落により、現在通行止めとなっております。そして、平成30年にトンネル点検を行った後、供用廃止となっております。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） 現状は分かりました。

浦神地区には国道42号線がメインの道路であり、町内の他の地区へ行くには、この道1本しかないという状況でございます。令和元年には、国道42号線においてトレーラーの横転事故で12時間以上の通行止め、このときは朝刊の配達が生後4時から午後6時ぐらいにわたって配達された状況です。また、昨年には落石事故もありました。それに加え、この事故の作業車といひますか、ユンボを降ろすときに、ちよつとこかしてしまつて、それでも3時間以上通行止めになつてしまったという経緯もあります。どちらも機能回復までかなりの時間を要しているため、地区の住民、また国道を利用する方にも多くの迷惑をかけることになりました。

それに加え、南海トラフ地震に被災した場合に、県道長井古座線の八郎山トンネルの修復による開通後であっても、串本町田原地区の同道交差点より那智勝浦町方面へは、恐らく支援の優先順位は低いものと考えられ、浦神地区の集落の孤立というのが十分に考えられるところでございます。この浦神庄間の町道が問題なく利用できれば、大規模災害発生時にも救急車や消防車などの緊急車両の通行も確保でき、非常な重要な役割を果たす命の道になるのではないかと考えます。

そこで、当局としての今後どのようなお考えを持っているのか、また復旧の計画はあるのかをお聞かせ願ひます。

○副議長（城本和男君） 建設課長井道君。

○建設課長（井道則也君） お答えします。

以前から、浦神久司坂線の道路改修の要望もいただひておりまして、道路、トンネルの改修、道路整備や林道事業での整備についても検討いたしましたが、費用対効果等において補助事業の対象になりませんでした。町単独事業では巨額の工事費が必要となるため、整備工事については難しいと考えております。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） これに加えて、浦神方面からトンネル手前のところにおいて多くの雨が降るたびに、町道を含む町道周辺に形状が少しずつ変わつてゐる箇所も見受けられます。これは降つた雨水が町道の上を流れていくためであり、一部、送水管が露出している部分も見受けられます。ここに送水管が布設されておりますので、大水が出たときに送水管が破損し、大規模な断水が出ることも想定されております。このようなことがないよう対策いただけるようお願いいたします。

○副議長（城本和男君） 建設課長井道君。

○建設課長（井道則也君） 議員おっしゃいますとおり、このまま放つておきますと水道管の破損にもつながるおそれもあります。水道課と連携しましして協議しましして、対応を何とかさせていただきたいと思ひます。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 6番西君。

○6番（西 太吉君） トンネルの修復は財政的な問題等もありますので、なかなかすぐにというわけにはまいりません。ただ、国道42号線の迂回路として、いつか役に立つときが来ると思われますので、浦神地区の置かれている現状を十分把握していただいて、今後とも補助事業等、見つかったり、整備する機会がありましたら、ぜひ進めていただければと強く要望をいたしまして、私の一般質問は終了させていただきます。

以上でございます。

○副議長（城本和男君） 6番西議員の一般質問を終結します。

休憩します。再開13時。

~~~~~ ○ ~~~~~

11時32分 休憩

〔4番曾根和仁議長席に着く〕

12時59分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（曾根和仁君） 再開します。

次に、7番加藤議員の一般質問を許可します。

7番加藤君。

○7番（加藤康高君） それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず最初に、町長が考える、住んでよかった・住み続けたい・住んでみたいまちの実現に向けた観光による活性化、活気ある産業で、雇用が生まれるまちづくりという部分で、これは長期総合計画にあるんですけども、それにつきまして質問していきたいと思っております。

これは、先ほど言いました長期総合計画の中の大きな6項目の中のひとつで、その中に観光の振興とあります。

まず、この観光の振興について、施策により目指す方向性はどんなものかを確認したいと思いますので、お伺いいたします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 施策の方向性につきましては、長期総合計画の基本計画Ⅲ、活気ある産業で雇用が生まれるまちづくりの1、観光業の振興で、①稼いで潤す観光づくりの推進、②観光資源の活用の重点施策として取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 今、観光で潤す、こちらに、もちろん皆さんも持っている長期総合計画があるんですけども、この中で重点施策の中の稼いで潤す観光地域づくりの推進っていうのがあります。これは、ここに書いているとおり読ませてもらうと、（一社）那智勝浦観光機構が中心となって観光戦略を策定し、行政との役割を明確化した上で、効果的な誘客・旅行消費拡

大・W i - F i 環境をはじめとする受入れ環境の整備、稼いで潤す観光地域づくりを推進しますということで書いてありますけども、ちょっとここで観光機構って書いてますんで、この観光機構というのは、私が認識している中で言いますと、観光で稼ぎ潤うことを目的としまして、これは2020年4月に設立されました。2020年10月16日には観光地域づくり法人、DMOの候補法人となり、2021年11月4日には登録法人として観光庁から登録されました。その後、観光機構は、2020年7月に解散した那智勝浦町の観光協会や、那智勝浦町の役場が担っていた業務を一部引き継ぎ、那智勝浦町の観光振興を一体的に担っていく組織だと認識しております。

その情報収集から分析し、観光戦略の策定、マーケティングや那智勝浦町の宣伝、紹介、国内外からの観光客の受入れ環境整備などを行い、お客様に満足いただける持続可能な観光づくりを目指して設立されたということで思っております、これは私、過去の一般質問でも何度かこの質問をさせてもらっておるんですけども、今回、登録法人となりまして3年目ということで、多分3年目で更新の時期になっているかと思うんですね。それもありますし、本町から予算等も執行してますので、そのことで質問していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

そこで、DMO、那智勝浦観光機構にしましょうかね、観光機構について、今まで私も何回か質問してきましたので、それについて間違いがないかというか、ちょっと認識も間違えたら悪いので確認したいと思うんですけども、これは昨日、3番議員さんも聞いておりましたけども、まず観光協会と観光機構の違いはどのようなことがあるかをお尋ねいたします。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） お尋ねいただきました協会と機構の違いということですが、まずは団体であった観光協会から法人化することで、より責任を持っている団体となりました。観光機構は、政府が進める観光、地方創生を実現するため、その母体として機能し、国内外からの観光客の流れを戦略的に創出し、地方創生を実現させるため設立されました。

また、各種データの継続的な収集、分析を行い、それに基づいた戦略の策定、観光事業者をはじめ多様な関係者、地域住民とも連携しながら運営、観光庁をはじめとする官公省庁による重点的な支援を受ける組織として設立され、そちらを目指すことが違いとなっております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 私の認識では、観光協会というのは、町から、もちろん今双方とも補助金をいただいておりますけども、観光協会というのは町から補助金をもらった上で、その中で運営していくと。観光機構という新たに、先ほど説明ありましたが、責任を持って、責任がある、責任を持っていくということになると、プラス、思ってたのはそこで観光をすることによって稼いで潤すっていうまちづくりも一緒にできていくんだと思っておりますけども、だから責任感が観光機構にはあるという、責任感というか、観光機構はその一つの団体で、町の補助金プラス自主財源等も踏まえて、観光業に特化した上でもうけていくというか、そういうふうに関光業を進めていく団体というイメージでいいんでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 観光機構の使命ということ……。違いますか、すみません。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） すみません、ちょっと今のはもう、はい、ごめんなさい。ちょっと私もあれだったんで。

その観光機構、ちょっと話は変わりました、立ち上げのときに何回かここで質問させていただいて、そこで感じてたのは、観光に携わっている人以外の人も巻き込んで地域づくりをしていくってようなイメージで捉えてたんですけども、そこについては変わってないでしょうか、観光機構。その観光ができる何がしがあって、本来であれば観光業っていうのは明確化しているんですが、この観光機構ができることによって、観光に従事していない町の人たちも全てを巻き込んで、観光で潤す那智勝浦町をつくっていくってところで私は認識してたんですけども、それは今の観光機構ではどういう形か、教えてください。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 今議員のほうで御指摘いただいたとおり、地域の住民をはじめ、多様な関係者を巻き込んでいくというところは、当初からの大きな課題で方針でありましたので、そちらは変わっておりません。観光企画の運営の中でも重要ですし、現在6つの専門部会を設置しており、事業者の方をはじめ県や行政機関にも参加いただき、地域の方々と合意形成を図りながら運営していくという体制になっております。住民を巻き込んでいることは、部会等を通じて様々な方と合意形成を図っていくと、そういった取組になっております。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 今ちょっと部会のことがちらっと話に出たんで、あれですけど、そもそも7つでしたか、ちょっと私、今回のこの資料で、1つ吸収されて減っているとは思う。もともと7つだったんですね。そういう人たちとプラス、よく前の議会するとき、前回、これまで実はその専門人材を、データを管理してそれを置くのにどうするのかっていうのもありましたけども、この観光機構に入った専門人材の方が、それが専門人材なのかは別として、その人の出入りが激しいっていうのを聞いたりはしているんですけども、今現状はその人材的には特に問題なく回っているのかどうかっていうのは把握していれば教えてください。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） DMOの登録要件の一つでもございますデータ収集等の専門人材についてですけれども、まず専門人材について、特定の経歴、資格などの要件は定められておりません。国のほうからは、地域づくり法人が、各種データ収集、分析などのマーケティングの実施を組織として継続的に実施する上でふさわしいと判断された者に権限を与え、専門人材とするのは可能というふうな考え方が示されております。

この考え方から、最終的には国のほうと協議する必要があるのかもしれませんが、将来的には、観光機構の正規職員が経験、実績を積むことで、専門人材として配置されるということは

可能かと考えております。今の毎年、国の観光庁のほうへ出している届出に関しても、今現在のスタッフでその専門人材については充てているということで報告して、今のところそれで進めているところです。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） そしたら、資格というか、そういうのは特段なく、その組織の中でそういうデータに特化する方というのを決めればというか、しとけば、今後報告するのに国に対しての分は問題ないという認識でいいんですね。分かりました、はい。

1つは思うのは、この観光業っていう部分につきますと、観光機構ができるときにも私は言ったと思うんですが、人材、これが一番大切だと、人。そこについて、特に今は辞めてないかもしれないかもしれませんが、今のメンバーでいって。分かりました。ちょっとすいません、話変えます。

そしたら、話変えまして、これ一回、町長としまして観光機構自体はどのような団体だと考えているのか、ちょっとお考えをお聞かせください。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） まず、観光機構ですね、いわゆるDMOです。観光地域づくり法人でございます。この法人と観光協会の違いは、観光庁に登録をするかしていないか、登録法人かどうかというのが決定的に違います。これは平成27年11月に観光庁が登録制度になりました。そもそも観光振興というのは、地域の歴史文化や資源を活用し、経済発展をすることによって地域の活性化を図る、これは観光振興だと思うんです。その中に経済を発展させるというのは、稼ぐということです。稼いで地域を潤すのは観光振興です。その中で、経済活動をするのは、DMOではないです。地元の企業さん、あるいはホテル、食堂ですよね。ですよね。そこでお金を落としていただかないと地域は回りませんから。そういうものなんですよ。

この法人登録するためには、先ほど課長からもありましたように、様々なデータ分析とかいろんな計画づくり、組織をきちっとする、部会もつくるっていうような形できちっとした報告書をつくらないと、法人は取れません。ですから、1年以上かかって法人化を図ったわけなんですけれども。特に平成27年11月からなんですけれども、国のいろんな補助制度っていうのは大きく変わりました。1つが、例えば防災対策をしようと思っても、国土強靱化の計画の中に位置づけていないと補助金は出ません。ほかでいくと、例えばロケットで経済活動するための庁舎の改修とか、そういったことが、ひと・まちづくりの総合戦略に位置づけていないと補助金は出ません。

そういったことで、今回この観光地域づくり法人というのは、様々な観光の補助はあったけれども、この法人がないと補助金は基本的に出せませんよっていうようなことで、国の大きな補助制度の中で大きく変わってきたと思います。ですから、今まで協会であったけれども、法人になることによって、様々な補助制度を活用ができた。一つの例が、インバウンドの高付加価値のモデル地域、全国で12なんですけど、そのうちの1か所に選ばれたのが那智勝浦町だけ

なんですよ。これもDMOの力だと思ってますし、駅のマップとか、そういったものも観光機構だから観光庁の補助金をもらってそういった製作をしました。だから、これからもそうなんですけど、今はその登録がちゃんとしたデータ分析とかなければ、取消しをされます。取消しされたらどうなるかという、補助金はもらえないです。取りに行くことはできません。

そういったことで、国の政策の大きなことと、国全体が外貨を稼ぐ、外国からお金を持ってくる。今現在は、自動車産業で17兆円ぐらいです。半導体で5.5兆円、観光業が5.3兆円です。これを自動車産業並みに外貨を稼ぐというのが国の方針で、だからこそ法人をきちっとした上で、いかにきちっとお金もうけができるか、計画づくりをした上でやっているかということをチェックした上で、そういったことを上積みしていこうというような、大きな国の考え方なんです。

ですから、私どもは、この国の観光行政の中でやはり法人化をしないといけないということで、時間はかかりましたけれども、法人化をしました。ところが、DMOを立ち上げた途端にコロナがありました。そのときは、お客さんと呼んでは駄目って言われる時代を3年間過ごしたわけなんで、そういう意味では、人の出入りがどうこうっていうのはありますけれども、決して何かあったっていうんではなくて、もう何もできないような状況が続いたので、それが余計にうまく前へ進まなかった原因の一つではないかなっていうふうに思ってますし、今まさにV字回復のような形でお客さんが来ていただいていますので、そういったことで改めて地元の経済の回る、経済を回すためにうまくPRをしたり、そういったするものがいわゆるDMO、観光機構の仕事だと思ってます。そこでお金を落としてもらうのが、各商店であったり、ホテルに落としていただいて、税収を上げて、分かりやすいのが入湯税ですよ。それがぼんと上がる。それが観光の地域づくりだというふうに思ってます。

ですから、この法人というのは、法人化をしているかしていないか、登録できているかできていないか、それは一番大きな差だと思ってます。

以上です。長くなりましてすいません。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 分かりました。

そしたら、イメージ、法人格を取ることによって、国からの補助金がきっちりともらえて、その観光にお金を使っていけるといところなんですね。先ほどちょっと出てた11か所の話、高付加価値のなんですけど、その件なんですけど、すいません。私も仕事柄、ちょっと観光業もしている中で、県の観光労働部かな、とかも話はするんですけども、私が聞く限りは、和歌山県としては、本来、奈良県があつて、南ルートというか、向こうのルートを考えるっていうのがあつて、奈良県があつて、私のイメージは奈良県の吉野とか、向こうがあつたら、新宮市とか熊野とか入って、最終、那智勝浦へ来るようなイメージだったのが、今、高野山へ入ってきているんですよ、方向は。というのは、県の方針の中で、やっぱり和歌山というのは高野山を入れたほうがインバウンドにもという話を私は聞いているんですよ。そんな話はこっちは聞いてない。それが機構のほうに入っていく話なのか、ちょっと分かんないんですけど、私は和

歌山県のそれも担当者がそういう話で聞いてて、その11か所のやつは、そういうのは聞いているんですけど、そこらはないでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 多分それは高付加価値の関係ではないと思います。別のやつです。うちは奈良県の吉野のほうのビューローがメインで……。

ごめんなさい。まだ整理できてないんですけど、モデル地域の1か所に選ばれたというのは、もともと勝浦がエントリーをして、勝浦だけじゃなくて、三重県、奈良県も含んだ紀伊半島全体でやりませんかということで、うちへ補助金が入るようになったんです。その中で、高野山も入っているっていうのは、入っているかもしれません。ただ、私もメインとしては、吉野との勝浦のメインのところ、修験の道をインバウンドのアップパーのお客さんに提供できないかっていうようなことで奈良と一緒にやっています。ただ、メインが奈良県の観光ビューローさんがされているので、ちょっとその辺、情報のそこがあるかもしれませんが、そういう状況です。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 今、何で言いたかったか、結局、和歌山県那智勝浦町のポテンシャルが高いのがたくさんある中で、もしその補助金が取れたんでっていったらおかしいな、観光機構ができることによって国からの補助金がもらえると、その中でやれば、和歌山県で広いですよ、紀伊半島全体。中で、やっぱりインバウンドからすると、言うたら悪いんですけど、高野山というのはやっぱり来ますよね、何もなかった。今回、そういう11か所に選ばれて、もうちょっとそれが役場と機構が一緒になって話を持っていくのか分からないですよ、そういう話をもっと県に持って行ってほしかったなっていうのが、私、この観光全体を考えた場合、やっぱりこの南ルートっていう部分を考えたときに、そこで仮に私が聞いている情報で、高野山がもし入っているのであれば、奈良から来て高野山へ行って、また戻ってくるとか、そういう方法になりかねないし、またそこらはもうちょっと完全に別のルートとして、吉野から来て、三重県へ入って、それこそ新宮の速玉、あそこら辺も、熊野とか見てもらって、那智勝浦町で終わるような別のルートもつくってもらえるようなアピールをしてほしかったなと思って、私は県からそういう話も聞いたんで、ちょっと言うただけなんですけどね、その高野山という話は。

やっぱり全国で11か所に選ばれて、やっぱりポテンシャルは高い、すごいとこなんで、那智勝浦自体は。だから、そこは今後もうちょっと機構、そこが機構と観光企画課というか、行政が一緒になってアピールしていくもんなのかね。それか、機構がそれはメインとなって話をしていくものなのか。そういう割り振りというか、それはあるんですか。

観光の中で、やっぱり補助金、先ほどの9番議員さんも言うてたまあ言えば、1つは例えば合宿の補助金について、それは補助金だから、手数料とかは関係なしになるんでしょうけど、それは機構のほうメインとなっていくっていう方向だと思うんです。町のほうの観光企画課のほう、また別途同じように営業してどこかから引っ張ってくるっていう形では、その合宿

とかね。だから、そこら辺の割り振りが今後もそういう営業面というか、観光に対する営業面というのは観光機構が担っていくものなのか、そこらはどういう。

ちょっと話があればなんですけど、私、前に聞いたときに、町はハード面で、観光機構はソフト面ということで、両輪として動いていって聞いている中で、今後そう行くのであれば、同じようなそこらも一緒に話をやっぱりしていかなければ、片一方だけと話が、だからそういう情報も町の人たちも知っていないので、いろんなうわさじゃないですけど、観光機構は1つだけ、あるとこだけを重点に動いているとか、中には観光協会のほうがましだとか、いろんな話が出てくるわけです。けど、今、先ほど町長がおっしゃってもらったように、法人格を取ることでよって国の補助金をきっちりもらって、そこでやっぺいける団体ということであれば、それをもうちょっと大きくアピールしてもらった上で、町のハード面、ハード面というところで考えると、もちろんホテルの看板とかもちろんある、そういう道路とかもあるんでしょうけども、行政としてのハード面で考えると、住民の方に対してのその調整というか説明もハード面では必要じゃないかなと思うんですけど、そこら辺の考えはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 観光企画課長畑下君。

○観光企画課長（畑下貴幸君） 役場と観光機構の関係ということで御指摘いただきました。

議員御指摘のとおりでございます。両者が連携して事業を進めていく関係で、相互の情報共有、意見交換を行いながら、観光行政を努めているところであります。

おっしゃっていただいておりますハード、ソフトの話なんですけども、ざっくりとえばハードは役場、ソフトは機構ということで、機構のほうでは主にデータの収集、プロモーションということで、合宿誘致なりいろんなエージェンツへの働きかけ、また事業者さんとのつながりの中でプロモーションを効果的にしていただいております。役場のほうのハード事業のほうにつきましては、観光案内所やトイレの管理、案内板の設置などがありますけれども、そちらのほうはやはり地元の区や、案内板であればガイドの方とか観光関係団体とも情報共有して相談しながら進めているところであります。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 難しいかな。イメージは、ハード面とソフト面というところていくと、観光機構はできないハード面で、住民との調整というのは多分一番必要だとは思っています。そういうことがきっちりできていければ、今のような、コロナは仕方ないとして、その他以外で、やっぱり観光機構で一部に偏っているとか、そういう話が出てくること自体、そこはやっぱり行政としてもちゃんと説明をするべきだと私は思うんですけど。法人格を取って、補助金をもらってやっぺいっていくというのはええと思うんですけど、それに対しての、できた経緯であり、そういうところを踏まえてハード面として役場の行政のほうも住民との、なぜこれが必要なのか、多分理解してもらうためには、話をしていかな駄目じゃないかなと私は思うんですけどね。観光機構ってどうなんっていうのが、よく聞くので。私自身は観光機構、反対じゃないですし、必要やと思っております。だからこそ聞くんですけど、こういうふうな。

そこについてもう一回、行政として住民との調整とかをハード面でできるかできないかについてはどうでしょうか。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 観光機構と町の役割で、ハード、ソフトって本当に分かりやすく言っただけで、決してびしっと分かれているわけではございません。

人事異動があったりして、なかなか情報共有できなかったんですけども、これから毎月、その前は1週間に2回ぐらい、ずっとミーティングをやったりもしたんですけど、そのときはコロナの真っ最中でした。今はできる限りということで、先般も観光機構と一緒にやって、情報共有しながら観光施策を進めていこうっていうようなことになってます。

先ほど、スポーツ合宿の関係、これは観光機構がなぜ持つてるかっていったら、観光機構の理事の中に、紀南合宿の協議会の一番トップの人がうちの機構の中に入ってくれているんです。田辺周辺ですね。その人は、もう本当にいろんなお客さんを連れで来ていただけるんで、しかもうちの補助金がなかったということ、私どもはいろんな大学とか回れません。PRに行くには観光機構の職員であったり、その理事さんを通じてになりますから、どうしても観光機構の方々のお知恵なり、力を借りないとできないということで、観光機構にお願いしてます。その部分はね。

あと、ハードというのは、いろんな工事関係は、観光機構は当然できません。うちの町なり、国の補助なんか、県なりの補助を受けてやりますから、そういったことなんですけど。

ちょっと一方的に何か偏っているんじゃないかというお話もありましたけど、ちょうどいろんなマップを作りますけど、私どもは機構に入っただろうがなかろうが、お客さんのためだったら、いろんな店を載らせるべきだって全部載せているんですね。そういう意味では、機会を全部しているんですけど、前だったら、会へ入ってなかったら、そこは載ってませんよという話も聞いたので、そういったことじゃなくて、お客さん目線で、全ての情報を入れて、来やすいような、来ていただいて喜んでいただけるような、そんなもんをしようというようなことで、そういう意味では全然違っていると思うんですけど、一部の何かとだけやっていうふうなことは私は全く聞いたこともないですし、具体的にどういうことなのか、ちょっと分からないんですけど、その分は私が何か答弁することはできないんじゃないかなと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 分かりました。今ちょっとその話の中で、理事の方のお話も出たんで、ここもちょっと疑問に思っているところがございますというか。昨日も3番議員さんがその質疑の中で、議員が理事になるの、なれないとか、社員と理事やったかな、ついてで、社員については理事の承認を得てなるということで決定されるとは聞いているんですけども、これそもそも一番最初立ち上げたときの理事というか、社員の構成の考え方はどういう。というのは、今の現状でいくと、サポーターから社員にはなれるのかなと思ったりとか、社員にならなければ、総会では、そういう中でも意見収集とか、サポーターはあくまでサポーターであっ

て、いろいろ意見も言えない組織、それは組織のことなんですけど。そもそも一番最初に立ち上げたときに、町長も理事長でおられて、決めていったわけじゃないですか。だから、そういうその決め方というの、どういうふうにできたのか、ちょっと分からなかったのを教えていただきたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 現在の観光機構の定款とかっていうのは、ちょっと今把握できてませんが、けれども、ちょうど設立のときに、社員とか理事とか、どう構成したらいいかっていうことで、様々ないろんなところのDMOのお話を聞かせていただきました。そうすると、広く一般にいろんな方をたくさん入れてしまうと、全く論議が前に進まずに、これも組織としてできないよってというようなこともありました。そういう意味では、すごく少数で始めたりってというようなことと、広くしたけれども、大変やったってというようなことで、様々な先進、平成27年で、私ども後進ですから、いろんな団体の話を聞かせていただいて、どういうものがいいかということで、そのときには、当初、私は理事長をしてましたけど、私どもの人口規模ぐらいであれば、町長がなっても、それが一番スムーズじゃないでしょうかってというようなことも観光庁のほうから、いろんな組織を見ながらそういうアドバイスもいただきました。それはその話で、今はもう私は理事長ではございませんので。ただ、組織については、今までの先行している事例を参考にしながら、十分検討して、本当に議論、100通りのいろんな意見が出ても、まとまらなかったらどうしようもないんでというようなことで、小っちゃいかどうかは分かりませんが、少人数で始めたような、ちょっと前の話なんであれなんですけど、先行事例を参考にしながらそういう組織を決めたと思います。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 先行事例、大体、すいません、そこはやめる。言うたら。すいません、分かりました。

ちょっともう一つ、そもそも聞きたいのは、今後、このDMO、観光機構というのは自主財源というか、今まで町から、昨日も3番議員さんの質疑ありましたけども、ずっと今後も予算として、継続していくんであれば、ある程度、行政からの補助金が必要かと思うんですけども、そもそもこのDMOの、この令和3年度の国交省から出ているこの手引とか、こういうのを確認していると、行く行くはある程度自主財源をつくっていかな駄目だというのはあるんですけど、そこらの考えは、変な質問ですけど、昨日のちょっと開示してもらった資料でいけば、極端な話、人件費もそれで終わると、極端な話ですよ。町からの補助金で人件費はそれでオーケーやと。ほかについては、補助金を取って一過性のをやって、だから別に極端な話、成果がなかろうが、人件費は確保されているし、そこで問題ないじゃないかという。普通の商売をしているのであれば、人件費を確保されているのであれば、そこにおける人っていうのは確保されているわけやから、極端な話、サボろうが何しようが、給料はもらえますよね、単純に考えると。

だから、今後、このDMOという観光機構を自主財源を持って、行く行くは町の補助金を下げていって、自主財源が増えていくような形の組織にしていくのかどうかという町の考えているのはどんな感じなのか、教えていただきたいです。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 自主財源の関係でございます。

今、駐車場収入とかあるかと思います。その中身はちょっと詳細は控えますけど、このDMOっていうのは、世界各地にこの法人があります。アメリカでは、ほとんど100%自主財源でやったんですが、コロナで全部潰れました。そういう意味で国の方針としては、半分ぐらいまでは自治体内の補助金があったほうが、より安定的にできるんじゃないかと。いわゆるパンデミックがいつ起こるか分からないというようなことで。そういったことでは、自主財源はある程度支援していただくほうがいいんじゃないかっていうふうなことが方針としてありました。

ただ、自主財源を稼ぐには、当然人も要ります。旅行業の手数料なんて5%です。たったの5%しかないですよ。そんなんでも労力と人件費はかかって、そのぐらいで無理なので、やっぱりお金を入れますけど、結果というのは、観光機構が毎年、データをきちっと出して、今まではどこから来て、どこへ行くかとかというようなことがないことも多かったんですけど、いろんなイベントをしたときに、どこから来ましたかとか、どういう満足はありましたかと、そういうデータも蓄積しておりますので、それは人件費だけじゃないかとよく分かりませんが、次につながるデータ集積ってのは、十分かどうかは分かりませんが、やっていると思います。そういう意味では、簡単にその自主財源100%に近いほうが、それはいいに決まってるんですけど、いろんな事態が起こったときにはそれも大変だというようなことで、国の方針として100%じゃなくて、ある程度補助の制度が要るんじゃないかというようなことは、官公庁とのやり取りの中で記憶はあります。ただ、今現在はどうか分かりませんが、はい、そういうことです。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 私も行政から補助金が出るのがまるっきり反対とかではなくて、これが徐々に、ゼロにせえとは言いませんけども、言えば減らしていって、手数料収入は今、先ほど5%言うてましたけど、それは多分契約の中でいろいろ変えれるとは思んですけどね。それは別として、例えばですけど。だから、そういう取り方っていうのは、いろいろあると思う。

一つは、思うのは、これ先ほど町長が言うた入湯税があるじゃないですか。よそのところは入湯税を今150円、極端な話で50円上げたりとかも、そういうような部分をそれを機構に対しての財源にするとか、プラス、あと宿泊税とかも取っているところも中にはあるわけじゃないですか、全国ね。だから、そういうのも考えて、そこでその分については全て機構の運営、いろんなしていく方向にしていって、町から出ている補助金に対してはちょっとずつでも、ゼロとは言いません、町長おっしゃるように何かあった場合は潰れたら駄目なんで、出しとかな駄目でしょうけども、ずっと毎年同じような数で決まってずっと出していくんであればと思うんで、そこはやっぱり観光としてそういう形で違う収入みたいな形で、そういう入湯税を上げた

りとか、宿泊税みたいなところを考えていって、それを観光に特化した部分で使ったりという考えは今後はないでしょうかね、そういうのは。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 入湯税につきましては、これはもう観光の目的税だと私は思っていたので、以前、8番議員かな、も入湯税は観光に使うべきでないかっていう話で、私はそういうつもりであります。いわゆるパンデミック、コロナのときは2,000万円弱になりました。今は4,000万円とか、上積みで5,000万円ぐらいになっていると思いますけども、できればその財源で観光機構も行く、観光機構が頑張れば頑張るほど、入湯税は上がるっていうのは割と分かりやすいので、そういったことができないかなっていうのは思ってます。

全部が全部整理できてないんですけど、入湯税はあくまで目的税だと思ってます。よく言われる宿泊税っていうのは、温泉がないところ、ビジネスホテルだけで、ごみの処理とか、いろんなことがお客さんが来ることによって行政経費がばあんと上がってしまうと。だから、そこは宿泊税で賄うっていうようなところが多いです。ですから、うちは入湯税って温泉のお金をもらっているんで、また二重取りみたいなことになったり、そういうことでは、以前も質問ありましたけど、それは宿泊税までは今のところは考えてません。いかに多くの方にお越しをいただいて、入湯税を落としていただくかというようなことが、一番今のできることではないかなというふうに思ってます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） その入湯税は目的税ということなんですけど、それを観光に特化した形でできるのであれば、今後ですよ、目的税だから多分いろいろ使うのがあるわけじゃないですか。だから、例えばさっき言うた150円なのを50円上げることによって、その50円は全て機構というかに使いますとかにすればとか私は思うんですけど、そこは今後の話で、できればという思いで、それは言わせていただきました。

観光機構について大分聞かせてはいただいたんですけども、全体に捉まえて、町長自身が考えている観光振興に関するその具体的なビジョンみたいな、というのがやっぱりここへ書いてる何か誘客をととか、具体的にこういうふうにしていきたいというビジョンがあれば、ちょっと教えていただきたいんですけど、観光振興についてのです。

○議長（曾根和仁君） 町長堀君。

○町長（堀 順一郎君） 観光振興については冒頭申し上げたとおり、今ある歴史文化とか、地域資源を生かして、多くの方にお越しをいただいて、経済活動を活発にさせて、地域の振興を図っていくのが観光振興だと思ってます。

観光というのは何かというと、やっぱり今の那智大社、青岸渡寺さん、那智の滝、そういった歴史文化、もちろん食べるものではマグロはありますけれども、ほかにないものっていうのは、やっぱり熊野信仰の那智の滝であったり、修験が復興して三十数年ですかね、そういったことっていうのは、唯一うちでしかないようなものがありますので、そこでどんどん誘客をす

る。ロケットの関係も本当にゆっくり見ていただけるような会場づくりをして、やっぱりゆっくり見れたよ、おいしいものを食べれたよっていうふうなことで、特に地域の方々が、ロケットであそこで2,500人来るわけ、もう決まってるんですよ、2,500人は最低来るんですよ。そこで地域の方々が、これ売ろう、あれ売ろうっていうようなことを促していきたいんですけど、なかなか皆さんお忙しくて、人も少ないという中で難しいかもしれませんが、そういったものを一手にプロデュースするような形の組織というか、それは観光機構になるのか、別の民間団体がいいか分かりませんが、そういったことがあって、経済活動が発展するかなと思うんです。

ですから、私のビジョンというても、多くのお客さんに来てもらうためには、今の資源をよりよく見せたり、お越しいただいた方がほんまに満足いただけるような、もちろん道路標識一つにしても、駐車場一つにしても、本当にすっきり入れたよとか、トイレが遠いとか汚いとか、そんなことを言われるのではなくて、そのインフラ整備も含めて本当に、もちろん住む人が一番気持ちよく暮らせる町が一番だと思いますので、そういったことを両輪というか、一緒になっていくのが観光振興につながるんじゃないかなと思うので、町民の皆さん方、本当に幸せによかったよって言われる、前言いましたね、観光っていうのは光を観るんですけど、幸せを観るという字に変えて、あの幸せな町を観に行くんだみたいなことで、町が本当に気持ちよく多くの方を受け入れられるような、そういう町にするのが今後観光振興の一番のポイントじゃないかなというふうには私個人的には思います。町としてどうやねんと言われると、ちょっとまだ皆さん方と協議できてないんで、私以前から言うてるように、観幸というのは幸せを観に行くということをお願いしてるところで、そういったことになります。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） 観幸を観る、前も聞かせていただいてあれなんですけど、これはもう答弁要らないですけど、インフラってちらっとおっしゃいましたんで、世界遺産の町云々でありますから、それこそ横断歩道とか、むちゃくちゃ消えているじゃないですか。そんなもん町からもちゃんとやっぱり言ってもらってしていかなければ、なかなか那智山のほうへ行くところかも看板がぼやけてたり、そういうのを早急にするのも多々あると思いますので、そこはよろしくお願いしておきます。

それで、観光機構、観光振興については、これにしまして、次、2番目のアートの町を巡る取組をというので、これはちょっと以前、ほかの課へ相談したときあるんですけど、例えばあそこのロケットの発射場の浦神小学校の残っているところにアート、絵を描いたりとか、極端な話、勝浦漁協にある市場のところに今ちょっとマグロを描いていますけど、あれをもうちょっときれいにして、四方から見るとか、町の財産の中で。一つその中で、道の駅のトイレのところがありませんか。白い壁があるんですけど、そこがちょうど高さ的に、何でかというたら、ちょうど子供たちを交えて、子供が手をばたばたと描いて、その上でプロのアーティストを呼べば、それが一つの絵になるって、そういう事業があるんです。そんな

で、この道の駅のトイレを使ったりできないのかっていうのをちょっとお聞きしたいと思います。

それで、今年20周年です、世界遺産の。できれば、それを町でお金を出せっていうことではないんです。そういう許可を出してもらえれば、そういう団体と共にできるのであれば、今年度中にやりたいなというのは、やってもいい、そういうのができればいいかなと思ってまして、ちょっとその道の駅のその使い方というか、勝手に多分できないでしょうから、そのもとは今、町が管理していると思いますので、どういう形か、ちょっと教えていただきたいと思います。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） お答えいたします。

道の駅のトイレに壁画というところがございますけど、まず道の駅の認定が平成22年にしておるんですが、その際の登録申請の際の施設の要件としまして、熊野の地にふさわしい社殿風の建物に統一し、周辺との調和に配慮したものというふうになっております。それ以降に、トイレが道の駅の際にできてますので、そちらも要件は加味されるのかなというふうに思います。

そしてまた、トイレについては国交省が建設されましたので、施設の維持管理については国交省の要件、そしてまた許可が必要と思います。

以上でございます。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） すいません。ということは、世界遺産センターというか、あそこはオレンジのこうなってて、トイレが後からできて、トイレは国交省の。その国交省の確認とかは逆に、変な話、取ってもらったりとかっていうのはできるんですか。ここですいません。

○議長（曾根和仁君） 農林水産課長村井君。

○農林水産課長（村井弘和君） 確認については、こちらで取らせていただくことは可能でございます。

以上です。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤君。

○7番（加藤康高君） ちょっと確認、一回別途の機会に聞きに行きますので、そのときはよろしくお願ひしたいと思いますので。

できれば、すぐそういう、今20周年やけども、いろんなイベントはしている中で、これちょっと私がおかしいんかもしれんけど、ちょっと文化的なことももちろん大切なんですけど、もうちょっと町がわあっとするようなイベントもあってええかなと私は思っていて、そこでちょっと子供たちを巻き込んでこれができれば面白いのかなと思ってたので、ちょっとこれは聞かせてもらいました、すいません。

いろいろ言いまして、最後になりますけど、一応私も町長にも期待してますんでね。やっぱりトップは、よくトップとリーダーの違いってありますけど、町長がトップでリーダーシップを

取ってもらって、やっぱりこの町を、住んでよかった・住み続けたい・住んでみたいまちの実現に向けて取り組んでいってほしいと思いますので、これからもこの観光機構も踏まえて那智勝浦町の発展のためにぜひともよろしくお願いいたします。私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（曾根和仁君） 7番加藤議員の一般質問を終結します。

以上をもって本定例会に通告されました一般質問は全部終了しましたので、これをもって一般質問を終結します。

以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

~~~~~ ○ ~~~~~

13時52分 散会